

令和4年4月25日

徳島医療福祉専門学校
校長 廣田 茂美 殿

徳島医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 市川 公雄

学校関係者評価委員会報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 市川 公雄 (勝浦町教育委員会教育長)
- ② 山口 寛 (本校非常勤講師)
- ③ 栗山 美子 (令和3年度保護者会役員)
- ④ 佐藤真知子 (令和3年度保護者会役員)
- ⑤ 岩朝 利雄 (三溪同窓会役員)
- ⑥ 東田 武志 (徳島県理学療法士会理事)
- ⑦ 細川 友和 (徳島県作業療法士会副会長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和3年5月30日 (感染症拡大により文書での回答に変更)
第2回委員会 令和4年3月28日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり。

以上

I 令和3年度重点目標について

1 重点目標①：「設立の理念ならびに教育目標を遵守した学校運営及び教育活動を推進するとともに、より安定かつ持続可能な学校運営の基盤を強化する。」について

コロナ禍においても安定した運営がなされている。
ワクチン接種の実施やリモートシステムの構築、実習システムの改善等、努力が伺え、建学の精神・理念に則った教育活動の展開により県内外からの信頼を得る療法士の育成に努めている。
先の見えない時代だからこそ、設立の理念を根本において判断することが大切だと考える。

2 重点目標②：「少子化ならびに大学指向者の増加に対応できる学生募集のあり方についてオープンキャンパス、進学ガイダンス、入学試験制度について、多面的な検討を実施し、必要なものについては、改善を図る。」について

進路説明会や進学ガイダンスの実施が困難な状況下においても工夫をし、定員を満たした入学生徒を得られたことは評価できる。さらには学園の求める主体性や協調性を図る選考方法が出来ないか検討してみてもどうか。
現在のコロナ感染症による重症化率の低さからのイベント等の入場制限数の緩和などの流れに同調し、学校行事やガイダンス実施の緩和の雰囲気が出ることを願う。

3 重点目標③：「学校評価機構（学外第三者評価機構）、学校関係者評価委員会等を軸に、教育基盤の強化を図るとともに、教育の質ならびに透明性の更なる向上を図る。」について

教育機器・施設の充実が評価できる。
引き続きPDCAサイクルに基づいた学校評価の実践継続による教育力向上に期待する。

4 重点目標④：「教職員のキャリア教育を積極的に推進し、教育・学生指導等の高質化を更に促進する。」について

引き続き学士・修士以上の取得の向上に努めている。教職員のキャリアアップ・指導力向上が学生の学習意欲の向上につながると思われる。
キャリア教育に対する支援の導入を考えてみてはどうか。
認定療法士・専門療法士の取得も視野に入れてみてはどうか。

5 重点目標⑤：「本校創立30周年記念事業開催に向けた実務を開始する。」について

30周年記念に向けて準備委員会を立ち上げ、計画的に進めることが出来ている。
対面で開催できることを祈願している。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像について

教育理念の下、引き続き専門的知識・技術はもとよりコミュニケーション能力、協調性、他の為に何ができるかを考え養う事の出来る教育を推進してほしい。

少子化により就労人口の減少が問題となっているが、県療法士会としても入学希望者の増加に繋がるような活動をしていきたい。

2 学校運営について

内外からの意見もバランスよく取り入れながら運営出来ていると思われる。

少子化が進む中で教育の質の低下や、学生サービスの低下に配慮した学校運営がなされていると思われる。

3 教育活動について

法令・規則に則った教育課程が編成出来ており、産学間での協調が図れている。また、養成校の指定規則の変更においても苦勞していると思われるが、学生にとってより良い教育に繋がるチャンスと捉え、更なる努力を期待する。

4 学修成果について

学習成果は国家試験合格率や就職率となって現れ、それらは結果を求められる。1年次からの個別的な手厚い指導により早期からの学習習慣を確立させ、進級率の向上を確保すべく継続的に現状の振り返りを行い改善等にも取り組んでもらいたい。

学生の希望就職先の確保のためにも、早めの活動展開が必要と思われる。就職活動解禁の基準を設け学生の学習意欲の向上に繋げてみてはどうか。

5 学生支援について

コロナ対策特別支度金を入学生全員に支給したことは良かった。

留年・休退学率の低下には1年次からの保護者との連携を密にすることが重要ではないだろうか。

就職活動では求人情報の確実な伝達と個人面談等の実施により就職率100%の成果を上げている。

6 教育環境について

施設設備・教育機器等については養成施設指定規則及びガイドラインの基準を上回って整備されており、コロナ禍におけるオンライン設備も速やかに導入され利便性は向上していると思われる。ただ、対面でのコミュニケーションが教育には大切であり、インターネットの利用の強みと弱みを考慮した環境整備が必要であると思われる。

7 学生の募集と受入れについて

高校生数の減少やコロナ禍でオープンキャンパス・進学ガイダンスの低調が志願者減に繋がっているように思われる。更なる体験型説明会等の工夫を行い志願者増を目指してもらいたい。

今後は増加しつつある高知県愛媛県での募集の成果を上げるとともに、本校にしかない特色を作り出し、しっかりとアピールすることが重要であると思われる。

8 財務について

教育事業・付随事業それぞれがバランスの取れた収支となるよう、更なる継続を期待する。

9 法令等の遵守について

関係法令・規則に則り、それらの改正にも適正に対応した内容で推進出来ている。

10 社会貢献・地域貢献について

対外的な学生のボランティア活動等も現状では難しいと思われるが、感染予防を徹底して with コロナの精神でまずは地域の中からも活動してもらいたい。

この活動は学園の教育に注目を集め、学生にも良い影響を与えることにも繋がるので、可能な限り積極的に推進してもらいたい。

III 特記事項

本年も新型コロナウイルス感染症により、例年の学内イベント・学外臨床実習・広報活動・オープンキャンパス等が軒並み中止や規模の縮小・形態の変更を余儀なくされ、思うような活動が出来ない中、病院施設との日頃からの関係作り、オンラインを活用した講義体系、さらにオンラインでの就職活動等環境の整備等により例年並みの教育活動・就職活動・国家試験の合格率を維持することが出来ていると思われる。これ以降のニューノーマル時代となることを基盤に置き、絶えずチェックを掛けながら、自信を持って学校運営に当たってほしい。